

# 宮私幼 P T A だより

第 72 号

発行 者 連 合 会  
宮私幼 P T A 美 集 者 会  
(会長 編 集 委 員 会)

広 報 局  
仙 台 市 青 葉 区 南 町 三 丁 目 6-12 佐 正 第 二 ビ ル 6 F  
電 話 (022) 263-7040 番



**人口維持政策こそ  
全ての政策に優先すべき！**

会長 渥美 巖

近年農漁村部の小学校に行く子ども  
の少なさが気になっていきます。

世界の人口は六十六億人から今  
後も増え続け、四十年後には九十億

人を突破すると予想されている中  
で、我が国の人口は平成十六年の

一億二千七百八十四万人をピークと  
して、以降減少傾向が続き平成四十

年には一億一千六十八万人をピー  
クとして、以後減少傾向が続き平成

四十七年には一億一千六十八万人に  
なると推計されています。

宮城県の総人口も平成十七年国  
勢調査では二百三十六万人で、五年

前の前回調査より約五千人減り、県  
政史上初めて人口減少に転じ、平成

四十七年の将来人口も百九十八万人  
になるといって残念な推計が示されて

います。男女・年齢階級別人口ピラ  
ミッドで見ると、昭和二十五年の年

齢が高くなるほど人口が少なくなる  
「富士山型」から現在は「ひょうたん型」

に変化し年少人口の少なさが出てお  
ります。

現在の人口を維持していくには合  
計特殊出生率が二・〇八人必要と言

われており、アメリカは二・一〇、イ  
ギリス一・八四に対し、日本は一・三四

(宮城県一・二七)と低い数値になっ  
ています。

私は国の人口が減少していくこと  
に大きな危機感を抱いており「人口

政策こそ国家として全ての政策に優  
先すべき」と考えています。国は少

子化の原因を探り、具体的対策を講  
ずるべきだと思います。

私達 P T A 連合会は、去る七月教  
育振興大会及び P T A 研修大会を開

催し、「安心して子育てができる環境  
が必要である」との大会宣言を採択

し、村井知事に今後の財政支援につ  
いて要望しました。

今年度県の幼稚園助成当初予算  
は、総額四十七億七千七百七十万

円となっており、一般会計マイナ  
ス一・八%の厳しい県財政の中で運営費

助成が二・三%増加したことは、私達  
の日頃の要望運動が実ったものと自

負しております。

安心して子育てができる環境・保  
護者の負担軽減の為に、皆様方  
のご協力をお願い致します。

**平成二十年年度役員名簿**

- |       |        |             |
|-------|--------|-------------|
| 会 長   | 渥美 巖   | 矢本はなぶ P     |
| 副会長   | 中島 源陽  | (体)いわでやま P  |
| "     | 稲富 将夫  | (体)矢本はなぶ P  |
| "     | 横澤 行夫  | (研)お人形社 T   |
| "     | 長谷川 幸  | (体)汐見台 P    |
| 監 事   | 赤松 貴子  | (研)あそか P    |
| "     | 金田 郁子  | (体)成田中央 T   |
| "     | 尾形 理恵  | (研)尚幼幼稚園 P  |
| "     | 横澤 行夫  | (体)お人形社第二 T |
| 事務局長  | 小野 暢彦  | 清 水 T       |
| 事務副局長 | 寺澤 正志  | (体)八幡花園 P   |
| 常任委員長 | 岩山 伸次  | (体)東盛 P     |
| 委員    | 高野 榮広  | しらとり T      |
| "     | 菅原 彰   | (体)すがわら T   |
| "     | 高橋 尚美  | (研)ひろせ P    |
| "     | 広野 ナオ  | (研) " T     |
| "     | 石橋 智恵  | (研)双葉 P     |
| "     | 小泉 真輪  | (研) " P     |
| "     | 柏崎 有子  | (研)めるへの森 P  |
| "     | 石垣 由理  | (体)広東岡 P    |
| "     | 泉山 香里  | (研)若林 T     |
| "     | 藤田 和枝  | (体)華の芽星谷 T  |
| "     | 熊谷 昭一  | (体)広華の芽 P   |
| "     | 野村 美加  | (体)広登米 P    |
| "     | 小久保達之  | (体)佑広 T     |
| "     | 丸森 裕樹  | (体)いわでやま P  |
| "     | 高橋 義明  | (体) " T     |
| "     | 高橋 眞由美 | (体)広よしの P   |
| "     | 梅木 正志  | (体)広日和 P    |
| "     | 渡辺すみ子  | (体)汐見台 T    |
| "     | 石田 一彦  | (研)尚幼幼稚園 T  |
| "     | 力安 道子  | (研)いちようの美 P |
| "     | 阿部ふさ子  | (研) " T     |
| "     | 矢部 理恵  | (体)成田中央 P   |
| "     | 中野 正志  | (体)お人形社第二 P |
| "     | 中沢 幸男  | (体)宮城学院附属 P |
| "     | 菊地 文博  | (体)東岡 P     |

◎各部会部長 ○各部会副部長  
(研) 研修部 (体) 体育部  
(広) 広報部の略

**「P T A 研修大会」に参加して**



七月一日、  
梅雨の晴れ  
間にふりそ  
そく陽射し  
の中、東京  
エレクトロ  
ンホール宮城の大ホールにおいて、  
平成二十年宮城県私立幼稚園教育  
振興大会及び、第三十七回宮城県私  
立幼稚園 P T A 研修大会が開催され  
ました。県内から大勢の P T A の皆  
様にご参加いただき、盛大な大会と  
なりました。

教育振興大会においては、「明日を  
担う子どものために」というスロ  
ーガンのもと大会宣言が行われ、村井  
県知事には県のご協力をお願いする  
ことが出来ました。

また、P T A 研修大会では、「子育て  
では晴れたりくもったり：何があっ  
てもあつたかごはん」という演題で、  
ハート&アート空間ピアーアイ代表の  
関口怜子先生からご講演をいただき  
ました。ご自身のことを「そうかば」と  
呼び、大きな声と身ぶり手ぶりで  
お話される姿に会場全体が引き込ま  
れていきました。

「げんこつ山のためきさん」の手遊  
びから始まり、「小さい畑」の歌、麩  
材を用いた手作りおもちゃを使うな  
ど、楽しくあつという間に過ぎてし  
まったという印象です。そして、そ  
の内容は子育てに対して、楽しく真  
剣にのどかに取り組むことの大切さ

を考えさせるもので、私にとっては  
目の覚めるようなお話でした。子育  
てとは、見えない心の畑に種をま  
いて育てることであり、幼ない子ども  
が自分で畑に水やり耕すことは難し  
い。毎日を早いリズムでこなしてい  
たら子どもの心の畑はどうなるかと。  
思わずハツとしました。忙しいふり  
をして心の畑を耕すゆとりを持てず  
にいたような気がしたからです。ま  
た、心の畑を耕す大人とは自らの言  
動に意味のある存在でなくてはなら  
ないそうです。子どもといる時間にも  
意味を持たせる。つまり子どもの  
心の畑にどんな風に種をまいて育  
てるか。つまらない種ならつまらない  
大人、思いやりの種なら思いやりの  
ある大人に。最後におまじないの言  
葉をいくつか教えて下さいました。  
「そうなの。大丈夫。ありがとう。」  
まだ幼い子ども達に接するからこそ、  
大人として意味のある言動が大切な  
のだと実感しました。

今後の子育てに、そして一人の大  
人として自分を振りかえる機会を与  
えて下さったご講演に感謝いたしま  
す。



講師 関口 怜子

お知らせ

第34回親善バレーボール大会  
 期日 平成20年10月9日(木)  
 会場 宮城県総合体育館  
 (ホットハウスアリーナ・利府町)

バレーボール大会優勝大会  
 期日 平成20年11月12日(水)  
 会場 グランディ21  
 (サブアリーナ)

平成20年度事業計画

今年度の目標

- ◇すべての子どもの為に、よい環境をつくろう。
- ◇よい親、よい教師となる為の研修を深めよう。
- ◇保護者の負担軽減の為、さらに努力しよう。

宮私幼PTA

期日	内容	会場
20年5月20日	前年度役員会	宮城県議会議事堂応接室
6月5日	平成20年度総会	東京エレクトロンホール宮城議会議室
6月11日	第1回役員会	宮城県議会議事堂応接室
7月1日	宮城県私立幼稚園教育振興大会 第37回研修大会 講演「子育ては晴れたりくもったり…」 講師 関口裕子先生 (ハート&アート空間ビーアイ)	東京エレクトロンホール 宮城大ホール
9月1日	宮私幼PTAだより発行(第72号)	
9月5日	バレーボール代表者会	
9月	第2回役員会	
10月9日	第34回バレーボール大会 (ホットハウスアリーナ グランディ21)	宮城県総合体育館(利府町) グランディ21
11月12日	バレーボール大会優勝大会	グランディ21(サブアリーナ)
11月	全日本私立幼稚園PTA全国大会	東京
12月	知事陳情	
2月	東北地区私幼PTA連絡会議	
3月1日	宮私幼PTAだより発行(第73号)	
時期未定	地区研修会(2ヶ所)	
随時	各部会(研修部・体育部・広報部)	

平成20年度予算

宮私幼PTA

項目	本年度予算額	前年度予算額	増減	備考
1. 会費	2,104,000	2,120,000	△16,000	80円×26,300名
2. 補助金	315,000	315,000	0	宮私幼20万、全日私幼P
3. 負担金	640,000	640,000	0	バレー参加費8,000円
4. 雑収入	40,000	40,000	0	バレー大会広告費、他
5. 繰越金	184,217	212,492	△28,275	
合計	3,283,217	3,327,492	△44,275	
1. 事務費	160,000	170,000	△10,000	
(1) 消耗品費	20,000	20,000	0	
(2) 通信費	20,000	30,000	△10,000	
(3) 印刷費	60,000	60,000	0	資料印刷
(4) 事務所費	60,000	60,000	0	宮私幼連合会へ
2. 事業費	1,960,000	1,960,000	0	
(1) 研修費	540,000	540,000	0	振興大会、地区研修
(2) 保体費	800,000	800,000	0	バレーボール大会
(3) 会報費	500,000	470,000	30,000	年2回発行
(4) 渉外費	120,000	150,000	△30,000	全国大会参加
3. 会議費	130,000	140,000	△10,000	
(1) 総会費	20,000	30,000	△10,000	
(2) 役員会費	100,000	100,000	0	
(3) 常任委員会費	10,000	10,000	0	
4. 旅費	150,000	170,000	△20,000	役員交通費
5. 分担金	789,000	795,000	△6,000	全日私幼PTAへ
6. 雑費	1,000	1,000	0	
7. 予備費	93,217	91,492	1,725	
合計	3,283,217	3,327,492	△44,275	

会員のひろば

PTA活動を通して

華の芽幼稚園P

熊谷 昭一



息子の入園とともに私のPTA活動もスタートしました。

クラス委員から始まって、副会長として今年度は会長になり、自分自身驚いています。

会長になって、やはり幼稚園に顔を出すことが多くなりました。顔をみると、子どもたちに駆け寄り寄って来られ、なかには飛びついてくる子どもいて、ずいぶん長くなりました。

先生方とも色々話す機会に恵まれ子どもたちのことを一番に考えている姿に、信頼感が増すばかりです。

何より、私を支えている役員の方々の頼もしさ。行事の話合いから準備、当日の運営と子どもたちのために協力を惜しみません。

行事を重ねることに結束が強まり、今年度はしつかりやっていますという確信を持つようになりました。

今後も卒園まで、たかさんの行事がありますが、一つ一つを成功させていきたいです。そして、PTA活動を通して得た先生方、役員のみならずとの連帯感を大事にしながらい会長という役を楽しんでいきたいと思えます。

ご恩返し

いちようの実幼稚園P

力安 道子



子供三人を幼稚園に通わせ、数えてみれば合計六年。

私も幼稚園六年生。一人一人性格も違うのでそのたびに先生達には本当にお世話になりました。最後にご恩を返して幼稚園生活を終わろうと役員を引き受けました。

一番上の子の時とは時代も変わり保護者の質も様変わりしています。いちようの実幼稚園では毎年、保護者同志交流を深めてもらうために役員が親睦会を開いています。どうしたらたくさん参加してもらえ、楽しんでもらえるか、毎年悩みます。

今年度はより親しくなってもらえるようにMAP(みやぎアドベンチャープログラム)を卒園児の親を講師に迎えて行いました。最初の戸惑いもいつのまにかにぎやかな笑い声に変わり、最後のお茶会には話がはずんで終れない程でした。わずか二、三年の幼稚園生活、親も私も楽しかった、終りたいものです。私もみんなに楽しかったと思ってもらえるように幼稚園と保護者のパイプ役として役員をつとめていきたいと思えます。これで少しでもお世話になったご恩を返せたら幸せだなと思っています。

子どもを通して

東岡幼稚園P

関口 真爾



ふと自分をかえりみて「親かあ」とびつくりします。頼りにしたり反発したりと何かと意識してきた親に私になることには、

子は親の鏡とはよく言ったもので、こどもたちが話す言葉はもちろん笑い方や怒り方に自分たちの姿を見たり、せかして叱つてばかりいる私がいかに時間に追われて生活しているのか考えさせられることもありま

す。思い通りにならない我が子の前にしてイラついたり、そのことに反省したりもしよっちゃうんです。そうかと思えば、こどもたちの何気ない言葉やしぐさに腹をかかえて笑うこともあって、「親」は思っていた以上にすごいもんだと感じる日々です。

またPTAをはじめ親として新しい関係も広がりました。出不清な私ですが、せつかくこどもにももらった機会なのでいろんな人に出会っていければと思っています。

あ と が き

「宮私幼PTAだより」第72号をお届けいたします。ご執筆いただきました皆さまに厚く御礼を申しあげ「あとかぎ」といたします。